



とちぎ
いにしへの
回廊



六

下野しもつけの「おくのほそ道」

芭蕉・曾良と歩く巡礼の旅



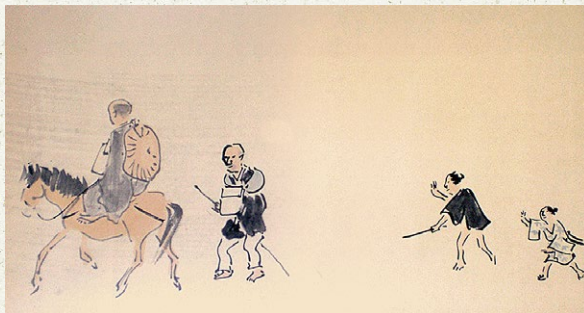
歴史への
しどない

ぶらり
散策

歴史への いざない

下野の「おくのほそ道」

おくのほそ道 権左のふかへ 菅良



与謝蕪村「奥の細道画卷」(複製、大田原市黒羽芭蕉の館蔵)
「かさね」との出会いの場面が描かれている

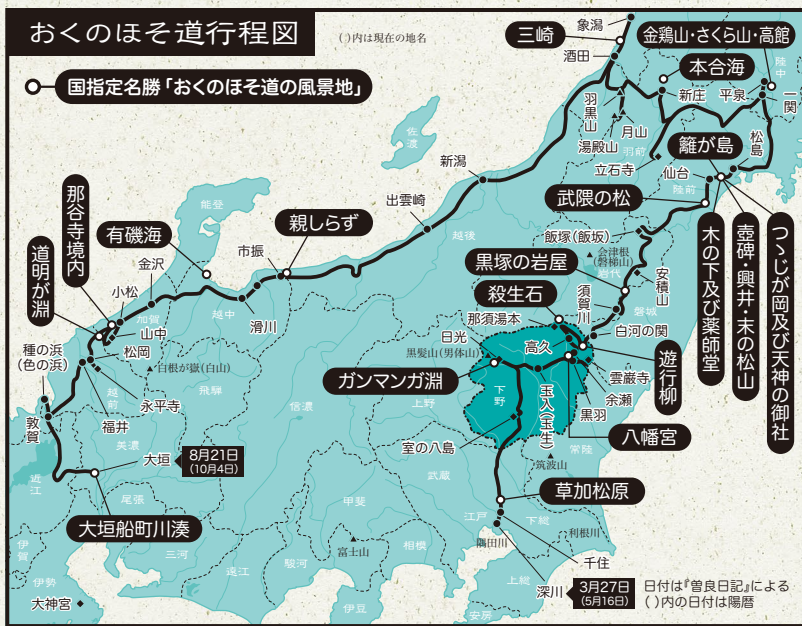
伊賀国上野(現・三重県伊賀市)出身で「俳聖」と言われた松尾芭蕉(一六四四〜九四)は、四十六歳になる元禄二(一六八九)年旧暦三月二十七日、当時住んでいた江戸深川(現・東京都江東区)を弟子の曾良とともに出発。日光道中を通り、下野国(栃木県)をはじめ東北・北陸の各地を巡り、旧暦八月二十一日までには美濃国大垣(現・岐阜県大垣市)に入り、旅を終えました。その距離およそ六〇〇里(二三五六キロ、より正確には四五〇里、約五カ月におよぶ長い旅でした。



芭蕉と曾良のブロンズ像(大田原市黒羽芭蕉の館)

芭蕉たちが「おくのほそ道」の旅に出たのは、東北・北陸のまだ見ぬ歌枕(古歌で詠み込まれ、親しまれた名所)を巡るためでした。下野国には二十二日間滞在。中でも「那須の黒羽」(現・大田原市黒羽地区)には十四日間と全行程中も最も長く滞在しました。

晩年、芭蕉はこの旅を『おくのほそ道』という紀行文にまとめます(出版は芭蕉の死後)。この作品は後世の人びとの風景観に大きな影響を与えました。



市指定
史跡

室の八嶋

むろのやしま
ろ-5

「おくのほそ道」で最初に訪れた歌枕芭蕉はこの地で左の句を詠んでいる。大神神社の境内で、古来より歌枕（和歌に詠まれた名所）とされた八つの小島を再現している。

「糸遊に結つきたる煙哉」

大神（おのみわ）神社／栃不市惣社町
P O II O

聖地日光へ

古風山光太寺

ろ-4

芭蕉ゆかりの笠塚が残る寺院

元慶四・天正元（一五七三）年の創建と伝わる曹洞宗の寺院。境内には、芭蕉が残っていた古い編み笠と草鞋を後に埋めて供養したという言い伝えが残る笠塚がある。

鹿沼市西鹿沼町
P O II O



国指定
史跡ほか

日光二社一寺

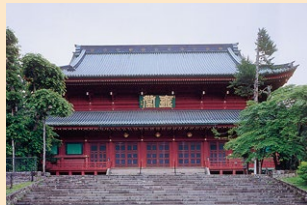
ろ-3

「日光」を象徴する世界遺産平成十一（一九九九年、世界遺産に登録。芭蕉たちは旧暦四月一日の午後、東照宮を拝観。「おくのほそ道」に芭蕉は次の句を書き残している。「あらたうと 青葉若葉の日の光」

日光市内
P O (有料) II O



日光東照宮（鳥居並びに陽明門）



日光山輪王寺（三仏堂）



日光二荒山神社（本殿）

【問（日光東照宮）】0288-54-0560【問（日光山輪王寺）】0288-54-0531【問（日光二荒山神社）】0288-54-0535【拝観時間（日光東照宮、日光山輪王寺）】（4～10月）8時～17時（受付は16時半まで）（11～3月）8時～16時（受付は15時半まで）【拝観時間（日光二荒山神社）】（4～10月）8時～17時（受付は16時半まで）（11～3月）8時～16時（受付は15時半まで）【駐車場】普通各500円【拝観料（日光東照宮）】大人（高校生以上）1300円（1170円）小・中学生450円（405円）【拝観料（輪王寺寺券（三仏堂・大猷院））】大人（高校生以上）900円（810円）小・中学生400円（360円）【本社神苑入園料（日光二荒山神社）】大人（高校生以上）200円、小・中学生100円 ※（ ）は35名以上の団体料金、宝物館、美術館等は別途料金必要

国指定
名勝ほか

含満方淵

い-3
367 281 611

大谷川のほとりにある小渓谷

男体山の溶岩によってできた深谷で慈雲寺（じうんじ）跡にある。南岸には、何度数えても数が合わないという「化け地蔵」がおよそ七十体並んでいる。芭蕉たちは旧暦四月一日の午前を訪れている。

日光市匠町
P O II O



裏見の滝

い-3
367 307 394*08

荒沢川にかかる日光三名瀑のひとつ

裏側から滝が見られたことに由来。旧暦四月二日の午前、芭蕉たちはこの地を訪れ、着想を得た芭蕉は次の句を詠んでいる。「暫時は滝に籠るや夏の初」

日光市丹勢
P O II X



市指定
史跡

鹿子畑翠桃墓地

い-3
121 447 133

芭蕉たちの黒羽滞在を支えた一族の墓地

浄法寺高勝の弟で芭蕉の弟子だった鹿子畑豊明（とよあき）併号・翠桃の屋敷跡近くにある鹿子畑家の墓地。旧暦四月三日、芭蕉と曾良はここで、「那須の黒羽」最初の宿泊をし、通算で五泊した。

大田原市余瀨
P O II X



修験光明寺跡

い-3
121 417 738*34

那須与一ゆかりの修験道の寺院跡

文治二（一一八六）年、那須与一が建立したという寺院。旧暦四月九日、芭蕉たちは招かれてこの寺を訪ねた。現在『おくのほそ道』で詠んだ「夏山に 足駄を拝む 首途哉（かどかな）」の句碑が建立されている。

大田原市余瀨
P X II X



那須温泉神社

は-1

那須与一が屋島の戦いで祈願

七世紀頃に谷に湧く温泉の発見から神社を建立。旧暦四月十九日午前、芭蕉たちは参詣。その時芭蕉は次の句を詠んでいる。「湯をむすぶ 誓も同じ 石清水」

那須町湯本
P O (県営那須湯本駐車場) II O



国指定
名勝

殺生石

は-1

狐が化身した伝説が残る奇岩

硫黄（いおこ）の香りが漂う「九尾の狐」伝説が残る史跡。旧暦四月十九日午前、芭蕉たちは宿泊先の主人の案内で見物。芭蕉は次の句を詠んでいる。「石の香や 夏草赤く 露あつし」

那須町湯本
P O (県営那須湯本駐車場) II O



国指定
史跡ほか

日光二社一寺

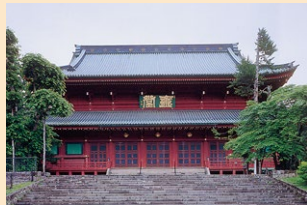
ろ-3

「日光」を象徴する世界遺産平成十一（一九九九年、世界遺産に登録。芭蕉たちは旧暦四月一日の午後、東照宮を拝観。「おくのほそ道」に芭蕉は次の句を書き残している。「あらたうと 青葉若葉の日の光」

日光市内
P O (有料) II O



日光東照宮（鳥居並びに陽明門）



日光山輪王寺（三仏堂）



日光二荒山神社（本殿）

【問（日光東照宮）】0288-54-0560【問（日光山輪王寺）】0288-54-0531【問（日光二荒山神社）】0288-54-0535【拝観時間（日光東照宮、日光山輪王寺）】（4～10月）8時～17時（受付は16時半まで）（11～3月）8時～16時（受付は15時半まで）【拝観時間（日光二荒山神社）】（4～10月）8時～17時（受付は16時半まで）（11～3月）8時～16時（受付は15時半まで）【駐車場】普通各500円【拝観料（日光東照宮）】大人（高校生以上）1300円（1170円）小・中学生450円（405円）【拝観料（輪王寺寺券（三仏堂・大猷院））】大人（高校生以上）900円（810円）小・中学生400円（360円）【本社神苑入園料（日光二荒山神社）】大人（高校生以上）200円、小・中学生100円 ※（ ）は35名以上の団体料金、宝物館、美術館等は別途料金必要

那須の黒羽

旧浄法寺邸

に-3

芭蕉たちの黒羽滞在所の拠点となった邸宅

黒羽藩城代家老で芭蕉の弟子だった浄法寺高勝（たかかつ）併号・桃雪（とうせつ）の屋敷跡に改修整備した建物。芭蕉は高勝への挨拶の句を詠んでいる。「山も庭もうごき入るや夏坐敷」

大田原市前田
P O (黒羽城址公園) II O (黒羽城址公園)



東山雲巖寺

に-3

芭蕉参禅の師・仏頂和尚ゆかりの古刹

弘安六（一一八三）年、仏国国師により再建された臨濟宗の寺院。二人は仏頂和尚が修行をした庵（いおり）跡を訪ね、芭蕉は次の句を詠んでいる。「木啄も庵はやぶらず 夏木立」

大田原市雲笠寺
P O II O



玉藻稻荷神社

い-3
121 505 029*82

伝説の妖怪・九尾の狐の神霊を祀る

源実朝（みなものさわとも）の和歌で有名な歌枕「那須の篠原」に鎮座。芭蕉たちはこの神社に立ち寄りたかは不明だが、神社より北にある九尾の狐が埋められたと伝わる「玉藻の古墳」を訪れている。

大田原市蜂巣
P O II O



那須神社「金丸八幡宮」

い-3

源義家や那須与一も祈った武運の神を祀る

四世紀末の創建とも、征夷大將軍・坂上田村麻呂が八幡宮にしたとも伝えられる。現在の楼門は寛永十九（一六四二）年の建立。旧暦四月十三日、芭蕉たちはここをめぐり参詣したのだらう。

大田原市南金丸
P O (道の駅那須与一の郷) II O (道の駅那須与一の郷)



遊行柳

に-2

謡曲と西行の歌から伝説が生まれた柳

「清水流るゝ柳蔭」と詠った西行ゆかりの柳。旧暦四月二十日、芭蕉たちはこの地に立ち寄り、芭蕉は「おくのほそ道」に次の句を載せている。「田一枚植て立去る 柳かな」

那須町戸野
P O (遊行庵) II O (遊行庵)



境の明神

に-1
203 232 798*78

国境に男女二神を祀る峠の神社

下野国と陸奥国の境に祀られた神社。女神は内（国）を守る、男神は外（外敵を防ぐ）を守るという信仰から、下野・陸奥側に「玉津島明神（女神）、反対側に「住吉明神（男神）」をそれぞれ祀った。芭蕉たちはここを越え、みちのくへと歩いていった。

玉津島神社／那須町寄居
P O II X



みちのくを目指して

ぶらり 散策

ここにも残る 「おくのほそ道」の 足跡

P 駐車場 H トイレ M マップコード



日光市山内 ようげんいん 養源院跡

寛永3(1626)年水戸藩主・徳川頼房(よりふさ)の養母・英勝院(えいしょういん)が妹の菩提を弔うために建立した寺院。旧暦4月1日の屋頃、芭蕉たちは東照宮拝観を願い出るため、こちらを訪れている。

P O (東照宮大駐車場: 有料) H X M 367 312 644



塩谷町玉生 ばしょういっしゅくのあとひ 芭蕉一宿之跡碑

旧暦4月2日、芭蕉たちは「那須の黒羽」に向けて日光を出立するも、激しい雷雨に遭い、玉生宿(たまにゅうしゅく)の名主の家に泊めてもらった。現在、跡地に建てられているのがこちらの石碑。

P X H X M 315 372 545



町指定
史跡

那須町高久 ばしょうおうづか 芭蕉翁塚

旧暦4月16日、芭蕉たちが黒羽藩領高久の大庄屋(おおじょうや)・高久家に滞在したことを記念し、宝暦4(1754)年に高久家北の裏山に建てられた。その時の句文にちなんで「杜鵑(とけん)の墓」とも称された。

P O H X M 121 862 568

芭蕉略年譜 (日付は旧暦)		西暦	年号	年齢
1644	寛永21 正保元	1	松尾与左衛門の二男として、伊賀国(現・三重県)に生まれる(幼名は金作、長じて忠右衛門宗房)	
1656	明暦2	13	2月18日、父没	
1662	寛文2	19	このころ、藤堂新七郎良精(よしきよ・侍大将・5,000石)の嫡子主計(かずえ)良忠(俳号は蟬吟・せんぎん、当時21歳)に出仕か	
1666	寛文6	23	4月25日、主君の蟬吟没(享年25歳)	
1672	寛文12	29	江戸へ移住(延宝3[1675]年説もある)	
1677	延宝5	34	この年(もしくは翌年)、宗匠として独立	
1680	延宝8	37	<ul style="list-style-type: none"> ・4月、芭蕉の弟子20人の独吟歌仙を20巻収録した『桃青門弟独吟二十歌仙』刊行 ・冬、日本橋から深川へ引越す 	
1681	延宝9 天和元	38	春、弟子の李下(りか)より芭蕉の株を贈られる(「芭蕉庵」の庵号はこれに基づく)	
1682	天和2	39	千春撰「むさしぶり」(弥生上旬奥)で初めて「芭蕉」号が公に用いられる	
1683	天和3	40	6月20日、郷里の母没	
1684	天和4 貞享元	41	<ul style="list-style-type: none"> ・8月、弟子の千里(ちり)を伴い「野ざらし紀行」の旅に出立(翌年4月末帰庵) 	
1686	貞享3	43	『春の日』刊行	
1687	貞享4	44	<ul style="list-style-type: none"> ・8月、弟子の曾良・宗波(そうは)と「鹿島詣」の旅に赴き、仏頂和尚を訪ねる ・10月25日、「笈の小文(おいのこぶみ)」の旅に出立(12月下旬帰郷し越年) 	
1688	貞享5 元禄元	45	8月11日、弟子の越人と「更科紀行」の旅に出立	
1689	元禄2	46	<ul style="list-style-type: none"> ・3月27日、曾良とともに「おくのほそ道」の旅に出立 ・『あら野』刊行 	
1690	元禄3	47	<ul style="list-style-type: none"> ・8月13日、『ひさご』刊行 ・8月、『幻住庵記(げんじゅうあんのみき)』成稿 	
1691	元禄4	48	7月3日、『猿蓑』刊行	
1693	元禄6	50	7月中旬すぎから約1ヶ月間、人とあうことをせず世間から離れて生活。「閉関之説(へいかんのせつ)」を書く	
1694	元禄7	51	<ul style="list-style-type: none"> ・4月、「おくのほそ道」素龍清書本成る ・『すみだはら』(6月28日奥)刊行 ・9月29日夜、臥床 ・10月8日、病中吟 「旅に病(やん)で 夢は枯野を かけ廻(めぐ)る」成る ・10月12日、大坂で没 	
1698	元禄11		『野ざらし紀行』刊行	
1702	元禄15		『おくのほそ道』刊行	
1742	寛保2		秋から冬、与謝蕪村は敬愛する芭蕉の足跡を訪ねて、滞在地の下総国結城から宇都宮を経て奥羽一円を遊歴	
1743	寛保3		芭蕉五十回忌。各地に句碑の建立、追善等の追慕事業が起こる	

小山市立博物館

【所在】小山市乙女1-31-7

【問】0285-45-5331【開】9時～17時(入館は16時半まで)【休】月(祝休日は開館)祝休翌日(土日の場合は開館)第4金曜日、年末年始(12月28日～1月4日)特別整理期間(年1回、10日以内)【料金】無料(企画展開催時は有料)【駐車場】あり



大田原市那須与一伝承館

【所在】大田原市南金丸1584-6

【問】0287-20-0220【開】9時～17時(入館は16時半まで)【休】第2・4月曜日(祝休の場合は翌日)、1月1日～3日、臨時休館日あり【料金】大人(高校生以上)300円(250円)中学生以下無料(無料)※()10名以上の団体料金、身体障害者手帳をお持ちの方(付き添いの方1名を含)は無料



壬生町立歴史民俗資料館

【所在】壬生町本丸1-8-33

【問】0282-82-8544【開】9時～17時(ただし、火曜は13時～。入館は16時半まで)【休】月、火午前、祝休日(企画展開催時のみ開館)年末年始【料金】無料(企画展開催時は有料)【駐車場】あり(壬生町城址公園)



大田原市黒羽芭蕉の館

【所在】大田原市前田980-1

【問】0287-54-4151【開】9時～17時(入館は16時半まで)【休】月(祝休日の場合は開館。翌日休館)年末年始【料金】大人300円(200円)小、中学生100円(50円)※()は20名以上の団体料金【駐車場】あり(黒羽城址公園)



栃木県立博物館

【所在】宇都宮市睦町2-2

【問】028-634-1311【開】9時半～17時(入館は16時半まで)【休】月(祝日、県民の日の場合は開館)祝翌日(土日の場合は開館)年末年始、臨時休館日【料金】一般260円(200円)高校、大学生120円(100円)※()は20名以上の団体料金※特別企画展時は別途特別企画展観覧料が必要※6月第2土日、県民の日(6月15日)文化の日(11月3日)は無料【駐車場】あり(栃木県中央公園)



那須歴史探訪館

【所在】那須町芦野2893

【問】0287-74-7007【開】9時～17時(入館は16時半まで)【休】月(祝休日の場合は開館、翌日休館)年末年始(12月28日～1月4日)※臨時休館日あり【料金】大人200円(100円)中学生以下無料※()は20名以上の団体料金【駐車場】あり



栃木県内の芭蕉句碑

江戸時代以降、全国各地で芭蕉句碑が連綿と建てられ、その数およそ2800基(沖縄県のぞく)。そのうち、栃木県内には74基あります。県内で最も古い芭蕉俳文碑は、那須町高久にある宝暦4(1754)年8月のもので那須町史跡に指定されています(「ぶらり散策」参照)。句碑としては、宝暦6(1756)年10月建立のものが最古。こちらは県立佐

野東高等学校の校庭にあり、「芭蕉のあやめ塚句碑」(写真)として佐野市史跡に指定されています。

その他、県内の芭蕉句碑についてもっと知りたい方は、蓮實淳夫・桑野正光『下野のおくのほそ道を歩く』(随想舎、2000年)と新井敦史『下野のおくのほそ道』(下野新聞社、2015年)がおすすめ。



県内最古の芭蕉句碑。「ほととぎすなくや五尺のあやめ草」と刻まれている

【表紙写真:左上から】東山雲巖寺山門／遊行柳／那須神社楼門／殺生石／並び地蔵(慈雲寺境内)(写真右最下部)森川許六「奥の細道行脚之図」(複製、大田原市黒羽芭蕉の館蔵)

「とちぎいにしえの回廊」とは

古くから自然と人間とのかかわりを通じて、人びとの生活の中から生まれ、大切に守られてきた文化財。このプロジェクトは、栃木県内に残る貴重な文化財を7つのテーマ(川と古墳、^{とうさんどう}東山道、中世武士団、日光への道、近代化遺産、おくのほそ道、くらしと水)から紹介することで、文化財という「宝」を知ってもらい、また新たな魅力を発見してもらおうプロジェクトです。

また、専用WEBサイトを開設しました。こちらでは、特集ページのほか、県内の文化財やお祭り・伝統行事の開催情報の提供など、本パンフレットに掲載されていない情報が掲載されています。ぜひチェックしてみてください。



<https://www.inishie.tochigi.jp>

関係連絡先一覧

栃木県教育委員会事務局文化財課
☎028-623-3424

栃木市教育委員会事務局文化課
☎0282-21-2497

鹿沼市教育委員会事務局文化課
☎0289-62-1172

日光市教育委員会事務局文化財課
☎0288-25-3200

塩谷町教育委員会事務局生涯学習課
☎0287-48-7503

大田原市教育委員会事務局文化振興課
☎0287-98-3768

那須町教育委員会事務局生涯学習課
☎0287-72-6565

写真提供・協力者(敬称略)

大田原市観光協会／大田原市黒羽芭蕉の館／大田原市那須与一伝承館／小山市立博物館／日光市教育委員会／日光東照宮／日光山輪王寺／日光二荒山神社

発行

栃木県教育委員会事務局文化財課

〒320-8501 栃木県宇都宮市埴田 1-1-20

マップコードとは？

